

下水道使用料体系の見直しを!

下水道使用料の比較

| 1か月の排水量 m ³ | 横浜市 | | 川崎市 | | 横須賀市 | | 平塚市 | | 鎌倉市 | | 藤沢市 | | 茅ヶ崎市 | |
|------------------------|-----|-----|-----|--|------|--|-----|--|-----|-----|-----|-----|------|--|
| 1001~2000 | 416 | 422 | | | | | | | 163 | | | 303 | 229 | |
| 2001~3000 | | | 446 | | | | | | 179 | | | | | |
| 3001~5000 | | | | | | | | | 196 | | | | | |
| 5001~10000 | | | | | | | | | 218 | 294 | | | | |
| 10001~15000 | | 472 | | | 369 | | | | 234 | | | | | |
| 15001~20000 | | | | | | | | | 250 | | 341 | 255 | | |
| 20001~25000 | | | 475 | | | | | | 267 | | | | | |
| 25001~30000 | | | | | | | | | 283 | | | | | |
| 30001~ | | | | | | | | | | | | | | |

横浜市 川崎市 横須賀市 平塚市 鎌倉市 藤沢市 茅ヶ崎市

左の表は、下水道使用料を計算する基になる1か月の排水量とその単価です。

一般家庭の排水量は、1か月平均20m³といえますから、1000m³以上となれば当然企業や大型商業施設などの排出量となります。

それが平塚市の場合、他市と比べても異常に安く、そのうえ細かく金額設定がされています。

これから見ても、いかに平塚市は大企業に甘いかということがおわかりかと思えます。

上の表は、平成19年4月現在の使用料体系です。

平塚市内で3001~5000m³の枠に入る業種は、製造業が9か所、病院・学校が2か所、その他には公園が1か所で計12施設のみです。

さらに、5001m³以上(30001m³~も含めて)の排出量の事業者等は、29か所しかありません。5001m³以上の排出量をこれだけ細分化する必要があるのでしょうか。

市民生活は、更なる負担増に苦しんでいるおり、企業にも他市並の負担をお願いするのは当然と考えます。

平塚市は来年度に下水道使用料の値上げを計画していますが、市民生活にこれ以上の負担を押し付けるのではなく、しっかりと大企業や大型商業施設等の負担額の見直しを図るべきではないでしょうか。



寺田縄にできる 県と市の協調事業 花と緑のふれあいセンター(仮称)

県の「旧農業総合研究所跡地」に計画されている「花と緑のふれあいセンター(仮称)」は、平成22年3月1日に開園予定となっています。昨年11月には、整備・運営を行うPFI事業者と整備の内容が決まりました。事業者は、東京ディズニーリゾートの植栽を担当している「グリーンアンドアーツグループ」。この中には「サカタのタネ」「NHKアート」など多数の企業が参加しています。落札価格は53億4,363万円。

共産党議員団は、この土地利用に際しては、建設ありきで進めるのではなく、地域の農業生産者や農業に関心のある方々の意見を十分に聴き、真に地域の農業振興のためになり、将来性のあるものにすべきと考えています。

センターの入り口付近には、約300m²の敷地を利用して、地域の野菜や花などを販売する売り場も予定されています。

このふれあいセンターは、野菜の作り方を楽しみながら学び体験し、農業に親しみ、それらの大切さを理解することなどが目的とされていますが、住民が心配する中で県が強力に進めてきた事業です。平塚市との「協調事業」となっていますが、何よりも平塚市の農業振興に寄与する拠点となることが大切です。

地域の生産者「ハッパ会」のご協力によって、「米づくり体験隊」が行われ今年で3回目となりました。10月13日に稲刈りを終え、みんなで乾燥機に入った米が玄米になる工程を見学しました。その後、おいしい新米をいただいて、参加した家族は大喜び。このイベントは来年も行われる予定です。



収穫の喜びに、お米も軽々と運んでいました。



小さな子供たちは、コンバインに乗って得意げです。

